

# 金鷹山

令和6年(2024)12月1日発行

## 通巻第22号

発行所 若宮八幡社社務所  
〒873-0004  
大分県杵築市大字宮司336番地  
発行者 宮司 紀田兼宣  
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。  
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



追儺祈願(おにやらい)で追儺板を叩いて厄を祓います

### ◆社報「金鷹山」第二十二号の目次

- ◆1頁 神前神楽「浦安の舞」舞姫(巫女さん)の募集
  - ◆2頁 大分県無形民俗文化財「御田植祭」・「若宮楽」奉仕者の募集
  - ◆3頁 奉斎会だより 現況の報告と今後の展開 入会方法について
  - ◆4頁 七五三詣 新嘗祭に奉献のお願い 例大祭奉斎行の予告
- 新年諸祈願の承りについて 編集後記

## 大分県無形民俗文化財

### 御田植祭及び若宮楽の奉仕者を募集します

#### 記

##### ○募集内容

- 若宮八幡社『御田植祭』(4月)早乙女の奉仕者
  - ・小学校6年生までの女の子
- 若宮八幡社『若宮楽』(9月)端楽の奉仕者
  - ・小学校6年生までの男女

※御田植祭・若宮楽共に奉仕者が集まりましたら、祭典前に数回の練習会を行いますので、ご参加ください

##### ○問合せ先

金鷹山若宮八幡社  
宮司 紀田兼宣(きだかねのぶ) 電話 0978(62)3148(若宮八幡社)



## 神前神楽『浦安の舞』

### 舞姫の奉仕者を募集します

#### 記

##### ○募集内容

- 『観月祭』(秋の満月)浦安の舞 舞姫奉仕者
  - ・中学校3年生までの女の子

※観月祭は満月の夕刻に雅楽や神楽を奏楽して神様の御心をお慰め申し上げる神事です

“あめつちの 神にぞ祈る 朝風の 海のごとくに 波立たぬ世を“

おひとりから練習会を開始します(講師 紀田宮司)

##### ○問合せ先

金鷹山若宮八幡社  
宮司 紀田兼宣(きだかねのぶ) 電話 0978(62)3148(若宮八幡社)







石清水八幡宮



石清水八幡宮摂社 若宮社

# 奉斎会だより

## 現況の報告と今後の展開について 第1回常若講座の報告

## 奉斎会への入会申し込みはインターネットから 公式HPのコンテンツからの申し込みがお勧めです

今夏、七月二十八日(日)に発足された「若宮八幡社奉斎会」ですが、設立総会時に審議了承された令和六年度の事業計画及び予算に基づき、現在順調に活動を展開しており、会員数も随時新規の入会を戴いているところであり、紙面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。

若宮八幡社が、遡ること寛和元年(西暦九八五年)に京都・男山に鎮座される石清水八幡宮から四柱の神様を勧請申し上げてから一千有余年の歴史を有する歴史のもと、御創建以来の伝統文化を後世に守り伝えることを目的として設立された当会ですが、設立当初は五十六名の会

員数が現在約百名に到達するほどに増えてまいりました。以降は多岐に亘る事業活動を行いながら、更なる新規の入会希望者を募り、親神様である石清水八幡宮の摂社である同宮境内に鎮座される「若宮社・わかみやしゃ」(当社と同じ祭神を祀る)で、年に一度の大祭である七月十八日の「若宮社祭」が斎行される日を別途として毎年、「奉斎会大祭」を斎行致し若宮社祭を寿ぎ、その日の近くの土・日曜日に「奉斎会年度総会」を開催してまいります。

下段の記事では、過日開催された「第1回常若講座」の報告と、奉斎会の入会方法をご紹介します。

【第1回常若講座の報告】  
去る十月十四日(月・スポーツの日)に、きつき生涯学習館におきまして、若宮八幡社宮司 紀田兼宣氏を講師に迎えて「第1回常若講座」が開催されました。

題して『若宮八幡社のご祭神と夏越大祓茅の輪の由来』と銘打ち、日本書紀の「三大神勅」「仁徳天皇」と、備後國風土記に記載のある「茅の輪」の説明が行われ、一同熱心に勉強されておりました。以降、年に4回(3ヶ月に一度)常若講座を開催しますが、講座の度にレジメ資料のPDFデータを公式HPに掲載しますので、ダウンロードしてご覧下さい。

# 若宮八幡社奉斎会の入会方法について

当社公式HP「金鷹山 若宮八幡社」から検索して入力の上、お申し込み下さい

若宮八幡社奉斎会  
入会申込票

令和 年 月 日

芳名(姓)	(名)
生年月日 大正 昭和 平成 令和	年 月 日 生まれ
会社名	
設立日 大正 昭和 平成 令和	年 月 日 設立
住所	〒 - - 市 区
連絡先 お届け先	電話 - / mail @ <input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 会社 <input type="checkbox"/> その他( )
会員種別	<input type="checkbox"/> 正会員(年会費5,000円) <input type="checkbox"/> 家族会員(年会費2,000円)
事務局欄	領収書 PC入力 会員証 芳名録 年会費

送信先 FAX 0978-69-7035 (宮司携帯 080-5503-3488)

若宮八幡社奉斎会会則

●年会費 (入金徴収なし)

正会員	家族会員 (正会員の同居する家族)
年額 5,000 円	年額 2,000 円

●入会方法

別添する「入会申込票」をダウンロード載せ、申込票に芳名・生年月日・住所等をご記入ください。

「入会申込票」をダウンロード (docx)

PCで入力の上、Eメールにて送信する場合は下記Eメールアドレスまで  
info@kintakayama.com

持参・郵送もしくはFAXで送信する場合は下記をご参照ください。

若宮八幡社事務局(奉斎会事務局)  
〒873-0004 大分県杵築市大字宮司336番地  
kintakayama.com

若宮八幡社 奉斎会

若宮八幡社奉斎会設立の経緯と入会のお勧め

令和6年7月28日(日)若宮八幡社御本殿において、「若宮八幡社奉斎会設立大祭」が斎行され、引き続き「若宮八幡社奉斎会設立総会」が開催され「若宮八幡社奉斎会」は発会されました。

この若宮八幡社奉斎会は、寛和元年(西暦985年)に、当社が下司の浜田社として御創建以来の信仰・歴史・伝統を守り、所蔵の文化財を後世に伝え、温故知新の精神を以て、神社の興隆を図るために必要な事業を企画し、実施することを目的として、設立発会された組織であります。

設立当初は、その主旨に賛同された会員で発会されましたが、その後会員相互の広報等により、少しずつ会

- 若宮八幡社奉斎会への入会方法
- ① 社頭にある入会のお勧め資料一式により申し込み方法と
- ② 当社公式HPからデータを入力して申し込み方法がありますが、インターネットを利用した②がご自宅で簡単に出来ると思います。
- 「奉斎会」のコンテンツから進んで戴き、「奉斎会会則(抜粋)」に賛
- 同されましたら、「入会申込票」をダウンロードして入力して下さい。
- 年会費について(入会費は不要)
- 《正会員 五〇〇〇円》
- 《家族会員 二〇〇〇円》
- 照会先・送信先
- 電話 0978(62)3148
- FAX 0978(69)7035
- メール info@kintakayama.com

- 【入会申込票について】
- 公式HP「金鷹山 若宮八幡社」で検索の上、「奉斎会」のコンテンツをクリックして、上記の「入会申込票」に「氏名・生年月日・住所ほか」を入力して戴き……
- ① メールに添付して送信
  - ② 印刷した申込票をFAX
  - ③ 印刷した申込票を持参
  - ④ 印刷した申込票を郵送
- のいずれかで申し込み下さい



# 七五三詣のお勧め

貴家のみで心穏やかに祈願をしませんか？

未来の宝 子供さん方の健康やかな成長を祈願する七五三詣を若宮八幡社では承っております。

市街地の大きな著名神社では、大勢の参詣者が訪れるため、混雑の中ほかのご家族と一緒に祈願となりますが、当社では一大家族ずつ心静かに祈願を行います。

七五三祈願は、年末まで承っておりますが、宮司が出向祭奉仕・他のご祈願の場合もありますので、必ず事前の予約申し込みをお願い致します。宮司携帯 090-5503-3488まで

《七五三祈願のお下がり》

- ① 神札(お名前を揮毫)
  - ② 七五三お守り
  - ③ 特製 神社トランプ
  - ④ オリジナル エコバック
  - ⑤ お菓子 ほか
  - ⑥ 神様からのご利益
- ※ご兄弟もお下がりあります



神社トランプ



オリジナル エコバック

## 新嘗祭に奉獻のお願い

秋の稔りを氏神様にお供えしませんか？

秋の稔りを神様に感謝申し上げる新嘗祭が、来る十一月二十三日(土・勤労感謝の日)に斎行されます。

この新嘗祭に併せて、氏子崇敬者各位からの「秋の稔り」のご奉獻を承ります。

「懸税・かけちから」とは、神様に捧げる稲穂で、この懸税が現在の「税金」の語源となっています。

この稲穂「懸税」をはじめとして、「お米」・「野菜」・「果物」など若宮八幡社の神様にお供えになりませんか？  
皆様からのご奉獻を心よりお待ちしております。



## 年に一度の最重儀「例大祭」のお知らせ

神輿が御旅所(若宮広場)に巡行されます  
みさき神樂の申し込みを承ります  
神賑として「池坊生け花展示」と奉納弓道大会



神前での神樂舞



神輿の出立



神賑 池坊生け花展示

年に一度の最重儀「例大祭」が十二月に斎行されます。

### 【若宮八幡社例大祭】

●日程 十二月七日(土) 及び八日(日)

十二月七日(土)

午前九時 例大祭

午前十時 神輿ご出立

(お下り神事)

午後一時 みさき神樂

十二月八日(日)

午後一時 斗初穂奉告祭

午後三時 神輿ご還幸

(お上り神事)



行列が御旅所に到着



御旅所での みさき神樂



お上り まもなく本殿に還幸

### 【みさき神樂】

十二月七日(土)午後一時 若宮広場の御旅所で行いますので茲に広告致します。

① お神樂料 千五百円也

② お下がり 荒神杖・お守

③ お申込み 神社総代か

神社までお申し込み下さい

④ 神樂内容

・修祓(しゅばつ・おほらい)

・宮司の祈願(芳名奏上)

・神樂奉納(約十五分)

・玉串奉奠

・直会(お神酒を戴く)

### 【例大祭の神賑行事】

●池坊別府支部生け花展

若宮八幡社拝殿において

奉納日程 十二月七日(土)

八日(日)の二日間

拝観は自由にご覧になれます

●奉納 弓道大会

奉納日程 十二月八日(日)

奉納団体 杵築市弓道連盟

奉納場所 杵築市宮弓道場

照会先

弓道連盟事務局 阿部様か

若宮八幡社社務所まで



新年諸祈願を承ります

「追儺祈願・おにやらい」は節分まで行います

令和七年(西暦二〇二五年)の新年を寿ぐ諸祈願祭を承っております。

諸祈願祭は、3頁の七五三祈願と同様に、ほかの家族と一緒に昇殿されることなく、貴家のみで祈願奉仕を行いますので、事前のお申し込みを必ずお願い致します。

【諸祈願の承りについて】

●祈願料(お気持ちです)

- ・ 個人の場合 五千円以上
- ・ 企業の場合 一万円以上

●祈願のお願い事

- ・ 厄除け(前厄・本厄・後厄)
- ・ 厄年一覧は下記を参照下さい
- ・ 家内安全(ご一家の健康)
- ・ 事業安泰(企業の承り)
- ・ 商売繁盛(二升五合)
- ・ 交通安全(車のお祓い)
- ・ 無病息災(併病気平癒)
- ・ 国家安寧(皇室 彌榮)
- ・ 子授け(元気な子供)
- ・ 安産成就(無事ご出産)
- ・ 初宮詣(百日までに)
- ・ 初誕生祭(一歳のお祝い)
- ・ ほか を承ります

●「追儺祈願・おにやらい」

祈願料 一万円也

内 容 ① 宮司祝詞奏上

② 「追儺板」を叩く

③ 宮司と一緒に豆撒き

④ 玉串奉奠

※一月中旬から節分に承ります

※豆撒き後の福柵は持帰り下さい

※お連れ様も一緒に豆撒きを行います

●奉斎会会員各位は、別途の特別昇殿参拝を行います

無料ですが、事前のご予約を必ずお願い致します。

2025年(令和7年)厄年早見表(女性・男性一覽)

女性 厄年			男性 厄年		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
2008年 平成20年生 (18歳) ねずみ	2007年 平成19年生 (19歳) いのしし	2006年 平成18年生 (20歳) いぬ	2002年 平成14年生 (24歳) うま	2001年 平成13年生 (25歳) へび	2000年 平成12年生 (26歳) たつ
1994年 平成6年生 (32歳) いぬ	1993年 平成5年 (33歳) とり	1992年 平成4年 (34歳) さる	1985年 昭和60年生 (41歳) うし	1984年 昭和59年生 (42歳) ねずみ	1983年 昭和58年生 (43歳) いのしし
1990年 平成2年生 (36歳) うま	1989年 昭和64年・ 平成元年生 (37歳) へび	1988年 昭和63年生 (38歳) たつ	1966年 昭和41年生 (60歳) うま	1965年 昭和40年生 (61歳) へび	1964年 昭和39年生 (62歳) たつ
1966年 昭和41年生 (60歳) うま	1965年 昭和40年生 (61歳) へび	1964年 昭和39年生 (62歳) たつ			

※()内の年齢は数え年での年齢です



追儺祈願の様



追儺祈願特製 福柵



▼最近、新聞の文字が小さくよくわからない。▼パソコンの使い方が理解できず、画面に向かつて憤りを感じてしまふ。▼車をまっすぐ停めたい線に對して大きく斜めになつていた。▼毎日の生活の中で知らないうちに行動している一連のことは、家内に言われて初めて「老化現象」であることが判明して驚きが隠せない。▼これを「令和の『オイル(老いる)ショック』」というらしい。▼悔しいけれども自分を鑑みるに、とうとう年金を繰り上げて受給していることからも納得せざるを得ない。▼気持ちを切り替えて地元〇銀行に行き、ふと広告テレビを見ると、久しぶりに島に帰省する青年の映像が流れているのが目に入った。▼子供のころの写真が、お盆の狐踊りであることから、そこは姫島であることが想像できた。▼続いて、その青年の帰省を心待ちにしているお母さんが、一所懸命に煮物を作ったり、お化粧したりして、我が子を港にまで迎えに行く。▼そして最後に港に帰り着いた我が子を見てつけて笑みを浮かべたところ映像は終了している。▼この地元の〇銀行でのひと時で、この広告テレビを見るたびに何とも言えない郷愁のような感謝のような気持ちにさせて戴き、有難い時間を享受している自分は、やっぱり涙腺が緩んだ初老男性だと実感するのである。▼生まれながらにしてアナログ世代として成

編集後記 紀田宮司のつぶやき 令和六年を回顧して

長して、ある日突然に、ワープロ・パソコン・スマホなど枚挙にいとまのないデジタル製品の襲来にひたすら耐えながら毎日を送る、自称「デジログおじさん」としては、これからもいつたい何が訪れるのか戦々恐々とする日々である。▼今年一年間を回顧して、公私ともに歩みし日々を列記してみると一月に「歳旦祭」を齋行した元日の夕刻に能登半島の大震災に始まり、翌2日には、日航機と海上保安庁機の衝突と続いたの悲劇に暗澹たる思いを抱いた人は多いことでしょう。▼三月に春季祖霊祭(九月に秋季祖霊祭)を齋行し、祖先の御霊に感謝申し上げた。▼四月の祈年祭は厳粛に齋行できたが、午後の「御田植祭」は、諸般の事情により中止のやむなきに至ったことを機に、地域有識者と共に「御田植祭復興委員会」を立ち上げ、来春の復興を目指す。▼七月には親神様である京都・石清水八幡宮の摂社「若宮社」とのご神縁により、「若宮八幡社奉斎会」を設立し、現在会員数は百名に至るまでに。▼八月には福津市鎮座の宮地嶽神社に奉職する長男が、こちらもご神縁を得て華燭の宴を挙げて家族がひと増えました。▼九月には、保存会のご指導のもと仲秋祭に続き、「若宮祭」が盛大に奉納されました。▼十一月には、四大行幸啓である「全国豊かな海づくり大会」が大分県で開催され、両陛下を奉迎申し上げ、新嘗祭を勤労感謝の日に

齋行。▼そして十二月を迎えることとなる。▼年の瀬を迎えると、日々慌しくなつて、「一体この誰が、一日が二十四時間二年を三百六十五日と決めたんだ?」と思いますが、そんなことを考えた時を司る神様である「月読命・つくよみのみこと」に叱られてしまひます。▼今年もオリピックが開催される閏年なので二月が二十九日まであり、一日得しているのです。▼だから今日は今日ではなく本日は明日であることを考えると自ずから年の瀬を迎える毎日にゆとりが出てきませんか?▼月に2回雅楽の研修会を行うときには、「今日だけは令和という時間を軸を忘れて、平安時代に心をタイムスリップしてゆつたりと研修しましょう」と諭しながら研鑽します。▼前記する「月読命・つくよみのみこと」のお話しは、追つて常若講座ですることとして、視点を来る令和七年(西暦二〇二五年)に向けてみると、来年は昭和百年・終戦後八十年という大きな節目の年です。▼小職の岳父の父親も昭和二十年に硫黄島で散華され、大分縣護國神社に祀られており、毎年三月の玉碎された命日には、鎮魂の祈りを捧げております。▼また伊勢神宮では、天皇陛下の御裁可を賜り、いよいよ第六十三回式年遷宮の神事が始まる年でもあり、日本国民は挙つて令和七年を感謝申し上げる年である認識の機運が高まつていくことを念ずるばかりです。 宮司謹記